

モノサシをどう使うか

当初の目標は“自分たちが暮らし、そして働く地域の「自然の豊かさ」を実感し、同時にその「豊かさの危うさ」を意識するための「自然と人の関係性を計るモノサシ」を作れないか？そしてモノサシを作る人も同時に作れないか？そして、モノサシを作ることにより高知県の財産である地域資源≒自然資源の豊かさを維持できないか？その為には、地域の人にまずその地域の自然資源について知ってもらう必要があると考えています。

→地域が持続できる仕組み。

→地域の持続には「4つの横断的要素」つまり、自然・ひと・仕組み・情報と経済が必要。

→では、何が課題で、どうすれば4つの横断的要素が「持続可能な仕組み」としてうまく回ってゆくのか？

もっともよい方法は地域行政のあらゆる分野の計画にこのモノサシの考え方が応用され、実行されることです。

が実際には「4つの横断的要素」のうち、経済の課題が優先され、本来の地域の暮らしを守る自然資本への投資は進みません。

企業においてESG投資が注目され実行されつつあり、またSDGs目標が世界のスタンダードルールになりつつある現在でも、高知県の現状は自然資本から得られる生態系サービス(自然の恵み)の上に乗ったフリーライド(ただ乗り)産業振興計画が多く、教育や地域振興、生態系の保全計画等々においても地域の人とのきちんとした合意形成がなされることはまだまだ少ないと感じています。

地域からのボトムアップにより、地域ごとの「地域持続計画≒地域のモノサシ」がたくさんできて、これらが行政等々の計画に反映されることがモノサシの使い方の可能性と考えます。

自然資本(natural capital)とは

生態系サービスの供給源である山・森林・海・川・大気・土など自然(≒生態系を構成する生物を含む生物圏すべて)が生態系サービスを生み出す資本としてみなす考え方。

自然資本を元本としたら、生態系サービスはその利息といえる。つまり、元本である自然資本の劣化は我々が受けることのできる生態系サービス(自然の恵み)の減少を招く。

ESG投資とは

環境(Environment)、社会(Social)、企業統治(Governance)に配慮している企業を重視・選別して行う投融資。

投資の短期リターン追及が金融危機を引き起こした反省から、気候変動・労働環境・生物多様性など持続可能性の視点を組み込んだ、長期的視野の変動リスクに対応した投融資といえる。

生態系サービスとは

生態系が持つ多様な機能のうち人間が受ける恩恵の総称。国連環境計画は2005年に「ミレニアム生態系評価」を発表し、生態系の変化が人類に及ぼす総合評価を行った。その中で生態系サービスを1 供給(食・水・木材など) 2 調整(気候・洪水・疾病など) 3 文化(教育・余暇・景観・文化資源など)に分類した。